

科目	週時数
国語/書写	国語 3.5 書写 0.5 計 4 時間

目標	よりよい社会の担い手となるため、言葉の多面性を理解し、その表現を深めたうえで、自分の思いや考えを他者と共有し、展開させ、発信する力を養う。	
	知識技能	様々な材料から必要な内容を指摘し、的確に書き表すことができる。 自らの考えを、書き表すことができる。
	思考判断表現	自分と相手の考えを比較することができる。文章の中に書かれている因果関係を指摘することができる。話し言葉を大切にし、的確に用いることができる。
	主体性協働性多様性	様々な種類の文章を読み疑問を持つことができる。自分とは異なる考えを理解しようとし、他者の視点を知ることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>風の五線譜</li> <li>話し方はどうか</li> <li>詩の心—発見の喜び</li> <li>飛べかもめ</li> <li>さんちき</li> <li>言葉の単位と文の成分</li> <li>オオカミを見る目</li> <li>単語の分類</li> <li>自立語&lt;名詞・連体詞・副詞・接続詞・感動詞&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文学作品を通じて、「読む」「書く」「話す」「聞く」の基本的技能を身につける。</li> <li>事実に基づいた意見を的確に理解し、自らも事実に基づいて的確に意見を述べるることができる。</li> <li>グループ学習を通して、互いに評価することができる。</li> <li>文法の基本を理解する。</li> <li>古典に親しみ、関心をもつ。</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>伊曾保物語・竹取物語・矛盾</li> <li>私のタンポポ研究</li> <li>月夜の浜辺</li> <li>少年の日の思い出</li> <li>ニュースの見方を考えよう</li> <li>自立語&lt;動詞・形容詞・形容動詞&gt;</li> <li>トロッコ</li> <li>楷書、行書、生活を豊かにする文字</li> <li>書き初め書道展作品作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形象や心情の描写の理解を通して、主題に迫る。</li> <li>説明文・論説文の構造を学び、筆者の意見を読み取る。</li> <li>品詞の知識を通して、文法についての理解を深める。</li> <li>暗唱を通して、古典作品に親しみを持つ。</li> <li>古語、歴史的仮名遣いについて理解する。</li> <li>楷書、行書の基本的な書き方について理解する。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『新しい国語1』(東京書籍) 『新しい書写 一・二・三年』(東京書籍)
副教材	「つまづかない! 文法の学習」(新学社) 「単元別漢字1」(秀学社)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	調べ学習を取り入れる 暗唱を取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	単元末『てびき』『読み取る』『考えを深める』の完全解答 漢字小テストの完答 「つまづかない! 文法の学習」ドリルの完全理解
	60%	単元末『てびき』『読み取る』の完全理解 漢字小テストの80%の解答 「つまづかない! 文法学習」基本問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
地理/歴史	地理 2 歴史 1 計 3 時間

目標	(地理)小学校で学んだ知識に加えて、世界の国々について、自然条件のみならず歴史的背景や社会制度の違いにより多様なくらしが営まれていることを理解する素地を育てる。 (歴史)日本を中心に、原始・古代から中世前期(13世紀)までの各時代の特徴や歴史的展開を、史料を活用して批判的に考察・理解し、時代観を示すことができる。	
	知識技能	教科書を精読し、書かれている事柄や事項について、因果関係を含めて理解することができる。
	思考判断表現	自分が理解したことを調べてレポートなどにまとめ、文章や図表を用いて的確に表現することができる。
	主体性協働性多様性	学校で学んだ知識に関連する事項の情報を、ニュースや新聞、インターネットなどから積極的に収集することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1学期	(地理) 第1部 世界と日本の地域構成 1章 世界の姿 2章 日本の姿 第2部 世界のさまざまな地域 1章 人々の生活と環境 2章 世界の諸地域 1節 アジア州 (歴史) 第1部 歴史のとらえ方と調べ方 第2部 歴史の大きな流れと時代の移り変わり 1章 古代 古代国家の成立と東アジア ～3節 中国にならった国家づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六大陸と三大洋、緯度と経度、時差、地球儀と世界地図の違いなどを理解する。</li> <li>・世界各地の人々の生活と自然環境の関わりを理解する。また人口の多い国、多くの少数民族、変わる農業と農村、鉱工業、世界の中の中国という観点から中国について理解する。</li> <li>・原始・古代の日本について、時代の特徴と歴史的展開を理解する。</li> <li>・諸資料を適切に選択、活用し、時代観を説明することができる。</li> </ul>
2学期	(地理) 2章 世界の諸地域 2節 ヨーロッパ州～6節 オセアニア州 (歴史) 4節 展開する天皇・貴族の政治～ 2章 武家政権の成長と東アジア ～3節 人々の結びつきが強まる社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史、工業・農業からみた結びつき、各国同士がEUという枠組みで結びついていることを理解する。</li> <li>・オセアニアの国々の人口・面積、自然、産業、国の歩みや文化などの観点から理解する。</li> <li>・中世の日本について、時代の特徴と歴史的展開を理解する。</li> <li>・諸資料を活用し、歴史的な事象を多面的、多角的に考察し、適切に表現する。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習 ICTを活用した学習
教科書	『中学生の地理』(帝国書院) 『中学校社会科地図』(帝国書院) 『中学生の歴史』(帝国書院)
副教材	なし
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	調べ学習を取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の語句の完全理解、教科書の資料・写真・地図および配布資料の理解
	60%	教科書の基本語句の完全理解、教科書の資料(写真・地図)の理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
数学	4 時間

目標	数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。	
	知識技能	数学的活動を通して、正負の数、文字と式、方程式、比例と反比例、平面図形、空間図形、資料の分析と活用における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、事象を数理的に考察し、的確に問題を解決できる。
	思考判断表現	数学的活動を通して、正負の数、文字と式、方程式、比例と反比例、平面図形、空間図形、資料の分析と活用における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数理的にとらえ、論理的に考察し表現できる。
	主体性協働性多様性	自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[正負の数] 数の世界をひろげよう</li> <li>・[文字と式] 数学のことばを身につけよう</li> <li>・[方程式] 未知の数の求め方を考えよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正負の数を理解し、数の概念についての理解を深める。</li> <li>・文字を用いるよさを理解し、表現方法を学ぶ。</li> <li>・方程式を理解し、一次方程式を解くことができるようにする。</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[比例と反比例] 数量の関係を調べて問題を解決しよう</li> <li>・[平面図形] 平面図形の見方をひろげよう</li> <li>・[空間図形] 立体の見方をひろげよう</li> <li>・[データの分析と活用] データを活用して判断しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの数量の変化や対応を調べることを通して、比例や反比例の関係を見出し、表現し考察する能力を養う。</li> <li>・基本図形の作図能力を伸ばし、平面図形の理解を深める。</li> <li>・観察、操作や実験を通して考察し、空間図形の理解を深める。</li> <li>・資料の分布の様子を調べるために、資料をどのように整理したらよいかを学ぶ。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業、グループ学習および発表
教科書	『新しい数学1』(東書 数学728)
副教材	新しい数学 基礎からの問題集1(東書)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	解法の説明や問題演習などの機会を多く設定する、またICTを活用する

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の章の問題、副教材「基礎からの問題集」の完全理解
	60%	教科書の定義・定理・例・例題・問の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
理科①/理科②	理科① 2 理科② 2 計 4 時間

目標	植物の種類やその生活、大地の活動のようすなどの観察を通して、自然に対する興味・関心を高める。また身のまわりの物質、身近な植物、身近な地形、地層、岩石などの事物について目的意識をもって観察・実験を行い、結果を分析して解釈し、物質の性質や変化、植物のからだのつくりとはたらき、光について理解する。	
	知識技能	身のまわりの物質の性質や現象、身近な植物などをさまざまな観察、実験を通して調べ、現象の規則性や、物質の固有の性質と共通の性質があることを見出す。また、火山の形や活動のようすについて興味・関心をもち、火山噴出物の観察を通して、火山の形との関連、鉱物の種類との関係について理解する。
	思考判断表現	身の回りの物質、身近な植物などについての観察、実験の基礎を身に付け、光についての法則、また固体や液体、気体の性質、物質の状態変化、火山の形との関連、鉱物の種類との関係について理解するとともに、これらの事物・現象を日常生活や社会と関連付けて、科学的な見方や考え方を養う。
育てたい力	主体性協働性多様性	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な物質、また反射や屈折など光の進み方についての実験を進めることができる。</li> <li>光合成、呼吸、蒸散に関する実験結果と植物のつくりを関連付けてとらえる。</li> <li>地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付く。加えて、地層のでき方を考察し、重なり方や広がり方についての規則性を見出す。</li> </ul>

時期	学習内容	ねらい・目標
1学期	<b>【理科①】</b> 単元1いろいろな生物とその共通点 <ul style="list-style-type: none"> <li>生物の観察と分類のしかた</li> <li>植物の分類</li> <li>動物の分類</li> </ul> <b>【理科②】</b> 単元3身のまわりの現象 <ul style="list-style-type: none"> <li>光の世界</li> <li>音の世界</li> <li>いろいろな力の世界</li> </ul>	以下の各項目についての習得を目標とする。 <b>【理科①】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生物の観察のしかた</li> <li>生物の特徴と分類</li> <li>植物の分類と特徴</li> <li>動物の分類と特徴</li> </ul> <b>【理科②】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>光や音の規則性</li> <li>力の性質と2力のつり合い</li> <li>上記の事象と日常生活との関連性に対する、科学的な見方や考え方</li> </ul>
2学期	<b>【理科①】</b> 単元2身のまわりの物質 <ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりの物質とその性質</li> <li>気体の性質</li> <li>水溶液の性質</li> <li>物質の姿と状態変化</li> </ul> <b>【理科②】</b> 単元4大地の変化 <ul style="list-style-type: none"> <li>火山の形と噴火、火成岩の特徴と組織</li> <li>地震、地震の波の伝わり方、プレートの動き</li> <li>地層の重なり方、堆積岩の特徴</li> </ul>	以下の各項目についての習得を目標とする。 <b>【理科①】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>金属と非金属の区別、有機物と無機物の区別</li> <li>気体の発生方法と性質</li> <li>水溶液の性質(濃度や溶解度の計算)</li> <li>状態変化における質量、体積、温度の関係</li> </ul> <b>【理科②】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>火山噴火の種類や火成岩</li> <li>地震のしくみや地震波の種類</li> <li>堆積岩や化石の種類、地球の歴史</li> </ul>

授業の形態	一斉授業
教科書	『新編 新しい科学1』(東京書籍)
副教材	理科の自主学習 1年(新学社) カラーブック理科資料宮城県版(東京法令出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	実験や観察から得られた知識を元に、「理科の自主学習」のほか、授業でのプリントが解ける
	60%	学習範囲の課題を完成させ、関連する範囲の「理科の自主学習」の問題が解ける

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
音楽	1.5 時間

目標	音楽の幅広い活動を通して芸術的な能力を伸ばし、生涯にわたって芸術を愛好する態度を育てるとともに、感性を高め、豊かな情操を養う。	
	知識技能	基本的な発声、奏法ができる力。 基本的な楽譜の読み書きができる力。
	思考判断表現	基本的な知識、技能を使って表現する力。 様々な音楽の特徴の違いを聴き分ける力。
	主体性協働性多様性	ペアやグループの仲間と学びあう力。 グループやクラスで協力して表現する力。

時期	学習内容	ねらい・目標
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現(歌唱) 「校歌」、「夏の思い出」</li> <li>表現(器楽) 箏実技(基本奏法、「さくら」)</li> <li>鑑賞 「春」(ヴィヴァルディ)、「六段の調べ」</li> <li>楽典 譜表、音名、記号、音符・休符</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌う姿勢や基本的な発声法を身につけ、斉唱で表現できる。</li> <li>器楽曲の特徴をとらえる。</li> <li>箏に触れることで日本伝統音楽に興味・関心を持ち基本的な技能を習得し、特徴をとらえながら表現することができる。</li> <li>民衆の生活の中で伝えられてきた我が国の伝統的な歌の表現に興味・関心を持つ。</li> <li>楽譜の読み書きに必要な基本的な知識を身に付ける。</li> </ul>
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現(歌唱) 「アニー・ローリー」、「赤とんぼ」</li> <li>鑑賞 「魔王」(シューベルト) 日本の民謡、世界の諸民族の音楽</li> <li>楽典 拍子、音階</li> <li>創作 日本語の抑揚を生かした旋律づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスで協力し合い2部合唱を作り上げる面白さを体感する。</li> <li>歌曲の特徴をとらえる。</li> <li>多様な音楽の特徴を理解し鑑賞することができる。</li> <li>楽譜の読み書きに必要な知識を身につける。</li> <li>音符・休符の知識を活かして、オリジナルのメロディーをつくらることができる。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『中学音楽1 音楽のおくりもの』(教育出版) 『中学器楽 音楽のおくりもの』(教育出版)
副教材	「音楽のハーモニー1年」(正進社)、教師作成のプリント、教師作成の復習プリント
評価の方法	定期試験、実技試験、平常点(ワークシート、ノート、感想文、復習プリント等)
備考	chromebookの使用(小テスト、感想文、アンケート等)

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②実技テスト	表現の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教師作成の復習プリントの完全理解
	60%	「音楽のハーモニー1年」の問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週 時 数
美術	1.5 時間

目 標	さまざまな表現方法を学び、制作に活かしながら造形活動を楽しむことができる。 身の回りにある“美”に気づき、興味関心を持つことができる。	
	知識技能	色に関する基本的な知識を学び、制作に活かすことができる。 制作に関わる基本的な技術と能力を身につけ、自分のイメージが表現できる。 世界遺産の学習を通して美術との関わりを知ることができる。
	思考判断表現	創造力豊かに表現できる。 試行錯誤を繰り返して個性を引き出すことができる。 素材(材料)の特性を理解して有効に利用できる。
	主体性協働性多様性	PCでの調べ学習や数多くの作品を通して制作のヒントを積極的に探ることができる。 グループワークを通してお互いが協力しながら調査・制作・発表ができる。 他者の作品を鑑賞しながら作者の考え方や表現の多様性を知ることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	I 色のしくみ ・光と色の3原色・色相環・色の印象を知る ・混色の練習・道具の使い方を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りに溢れる豊かな色彩に興味を持ち、色の見え方や組み合わせの面白さを知る。</li> <li>・道具の正しい使い方を学ぶことで、作品を丁寧に仕上げることに繋げる。</li> <li>・モダンテクニックの技法を通して、絵画表現の幅広さを学ぶとともに、抽象的な模様面の面白さを知る。</li> <li>・目に見えない音の印象を色や模様置き換えて表現する面白さを体感する。</li> <li>・粘土を用いた制作を楽しむ。焼き物が出来上がるまでの一連の流れを学習して、中学校2年生で行われる絵皿制作への導入部として行うものとする。</li> <li>・他者の作品を鑑賞して表現の多様性を知る。</li> </ul>
	II 絵画 作品1)「音からのイメージ」 ・モダンテクニックの使用 ・作品鑑賞	
	III 陶芸 作品2)「土鈴」 ・アイデアスケッチ ・成形→素焼き→釉掛け→本焼き ・作品鑑賞	
	IV 世界遺産	
2 学期	V デザイン【協働制作と発表】 作品3)「世界の仮面」 ・仮面とは何か ・グループワーク ・仮面制作 ・スライドと展示による発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮面の芸術性や役割を知る。</li> <li>・協働制作での役割分担を明確にする。</li> <li>・役割分担は、①PCによる調査、②仮面デザインの提案、③PCによるスライド作成、④模造紙展示作業として、それぞれの作業を積極的に行えるようにする。</li> <li>・ダンボール等を利用した仮面制作を楽しむ。</li> <li>・他班の発表や作品を鑑賞して、仮面に関する知識を深めるとともに表現の多様性を知る。</li> </ul>
	VI 世界遺産	

授業の形態	実技
教科書	『美術1』(光村図書)
副教材	絵の具、ダンボール、陶芸用粘土
評価の方法	実技(作品)点と定期試験と平常点による総合評価
備考	PCを利用した調べ学習や作品鑑賞、世界遺産に関する学習を適宜取り入れる。

到達目標	①定期試験	試験範囲を理解した上で完全解答を目指す。
	②小作品	作品1・2・3の練習として適宜取り入れることで基本的な技術の向上を図る。
	③提出物	期限を守って作品やプリントを提出できる。
	④準備	忘れ物なく作業の準備をして、授業終わりには後片付けを積極的に行える。
	⑤学習態度	作業説明と指導に耳を傾け、試行錯誤を繰り返しながら制作に取り組める。

科 目	週 時 数
体育/保健	体育 2 保健 1 計 3 時間

目 標	体育分野では心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。保健分野では個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	
	知識技能	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身につけ、運動を豊かに実践することができるようにする。また、心身の機能の発達と心の健康について理解できるようにする。
	思考判断表現	運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。
	主体性協働性多様性	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	【体育】体づくり運動 *組体操、運動会の練習 体育理論 陸上競技(短距離走) バレーボール ソフトボール 【保健】 運動やスポーツの多様性 調和の取れた生活	【体育】 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようにする。 ・ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習で競技運営ができるようにする。 【保健】 ・運動やスポーツには、楽しさや多くの関わり方があることを知り、運動やスポーツの魅力について理解する ・健康とは何かを理解し、健康のための生活の仕方について学び、調和の取れた生活を目指す。
2 学期	【体育】 器械体操 相撲 ダンス 卓球 【保健】 心身の発達と心の健康	【体育】 ・器械運動では技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。 ・相撲は、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、押し寄りや寄りかかるなどの攻防を展開する。 ・ダンスは感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流ができるようにする。 ・ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 【保健】 ・心身の機能の発達の道すじと心の健康について理解できるようにする。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『最新中学校保健体育』(大修館)
副教材	中学体育実技(学研) 最新中学校保健体育学習ノート(大修館)
評価の方法	実技試験と定期試験(保健編)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②実技テスト	競技の特性を理解し、学習した技能に取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
技術・家庭	技術 1 家庭 1 計 2 時間

目 標	生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。	
育 っ て たい 力	知識 技能	実践的、体験的な学習活動を通して、基礎的・基本的な知識および技術を習得する。
	思考 判断 表現	習得した知識(技能)を活用して、工夫・創造し作業を行う。また、学習した事柄を、身近な生活の場で活用する能力と態度を育てる。
	主体性 協働性 多様性	身近な生活の中から課題を見つけ、自ら生活をよりよくしようとする能力と態度を身につけ、クラスメイトと情報の共有を行う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<技術分野> ・ガイダンス(生活や社会における技術の役割) ・材料と加工の技術(ものづくりの視点と進め方, 材料, 設計)実習含む  <家庭分野> ・ガイダンス(わたしの成長と家庭分野の学習) ・わたしたちの身近な消費生活と環境	<技術分野> ・工夫することで技術が進歩していることを知り、技術的課題を解決するとき、工夫することの大切さについて考える。 ・ものづくりの視点と工夫を知り、設計の進め方を理解する。  <家庭分野> ・自分や家族の消費生活に関心を持ち、消費のあり方を改善する。 ・消費生活と環境とのつながりについて考える。 ・持続可能な社会について考える。
2 学 期	<技術分野> ・材料と加工の技術(実習, 製作, 評価, 活用)実習含む ・社会・環境とのかかわり  <家庭分野> ・快適な衣生活に向けて ・中学生の食事と栄養 ・考えて食べることはなぜ大切か ・食生活の自立に向けて	<技術分野> ・技術と環境・エネルギー・資源との関係について知り、身の周りの課題が技術的に解決されていることについて考える。 ・ものづくりを通じて学習した技術を振り返り、これからの技術をどのように理解し、どのように活用するか考える。  <家庭分野> ・衣服と社会生活とのかかわりに関心を持ち、衣服の計画的な活用の必要性を理解する。 ・自分の食生活に関心を持ち、食事の役割や健康による食生活の重要性について理解する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『技術・家庭 技術分野』(開隆堂) 『技術・家庭 家庭分野』(教育図書)
副教材	技術・家庭ノート 技術分野(開隆堂 新学社) 家庭分野(教育図書)
評価の方法	定期試験と平常点(学習状況, 提出物, 授業態度, 作品評価等)による総合評価
備考	PC(chromebook)を使用して調べ学習等を行う

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む



科目	週時数
英語	4 時間

育 て た い 力	知識 技能	初歩的な語彙や表現で書かれた文章や物語の主な内容を読み取ることができる。 初歩的な内容の会話、自己紹介、放送などの主な内容を聞き取ることができる。
	思考 判断 表現	初歩的な語彙や表現などを用いて、自分自身のことや体験したことなどについての短い文を、英文のルールに従って3文以上で書くことができる。
	主体性 協働性 多様性	初歩的な語彙や表現などを用いて、自分自身のことや体験したことなどについて発表したり、短い会話をしたりすることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Welcome to Junior High School</li> <li>•New School, New Friends</li> <li>•Our New Teacher</li> <li>•Club Activities</li> <li>•Friends in New Zealand</li> <li>•A Japanese Summer Festival</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•ふだんよくすることやできることを伝える I am... / I like... / Are you...? / Do you...? / I can...</li> <li>•身近なものについて紹介したり、たずねる This[That] is... / He[She] is ... / What[Who/How]...?</li> <li>•いつ・どこなのかや数をたずねる Where[When]...? / I want to... / How many...?</li> <li>•相手に指示したり、時刻や好きなものをたずねる Be.../ Come.../ Don't... / What time.../What 名詞...?</li> <li>•行った場所や楽しんだことなどについて話す 前置詞/like...ing/be good at...ing / went, ate, saw, had, was</li> </ul>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>•A Speech about My Brother</li> <li>•Foreign Artists in Japan</li> <li>•A Surprise Party</li> <li>•Think Globally, Act Locally</li> <li>•Winter Vacation</li> <li>•This Year's Memories</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•三人称単数現在形を用いて人やものなどについてたずねたり伝える。</li> <li>•今していることについて説明したりたずねる 現在進行形(肯定文、疑問文と応答)</li> <li>•したいことやする必要のあることなどについて説明したりたずねる She wants[tries] to.../What do you want to...?/The children look happy.</li> <li>•過去の出来事について説明したりたずねる I visited.../I saw.../Did you ...?</li> <li>•過去の状態や気持ち、過去のある時点にしていたことについて説明する I was.../ Were you...?/There is[are]... / I was playing...</li> </ul>

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『NEWHORIZON English Course 1』(東京書籍)
副教材	英語のパートナー(正進社)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	教科書の本文を自由に使いこなせる(読む・書く・聞く・話す) 副教材の問題をすべて解くことができる
	60%	教科書の基本文・語句を使いこなせる めきめきイングリッシュ1の確認問題をすべて解くことができる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
道徳(聖書)	1 時間

目 標	人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。	
	知識技能	歴史的、社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。
	思考判断表現	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り、いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが、同時に有意味である自己肯定感を促す。
	主体性協働性多様性	異なった考えを積極的に捉え、これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで、全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史性、普遍性、倫理性</li> <li>・創立の経緯</li> <li>・3L精神</li> <li>・建学の精神</li> <li>・新約聖書概論</li> <li>・日本の宗教とキリスト教</li> <li>・主の祈り ①</li> <li>・主の祈り ②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖書を学ぶ、必要性を知る。</li> <li>・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。</li> <li>・3校祖と3L精神を学び、学院生としての自覚を促す。</li> <li>・教会の礼拝と、学校の礼拝の違いを知る。</li> <li>・イエス・キリストの生涯と、新約聖書の概観を知る。</li> <li>・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。</li> <li>・本来あるべき、神との関係性について知る。</li> <li>・本来あるべき、隣人との関係性について知る。</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新約聖書と旧約聖書の関連</li> <li>・旧約聖書概論</li> <li>・十戒 ①</li> <li>・十戒 ②</li> <li>・教会暦</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代の違い、ユダヤ教徒の関連を知る。</li> <li>・古代イスラエル史と共に、その豊かな知恵を知る。</li> <li>・本来あるべき神との関係性について知る。</li> <li>・本来あるべき隣人との関係性を知る。</li> <li>・一年を通じてキリストの生涯を意識しつつ生きる。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業
主たる教材	聖書
副教材	なし
評価の方法	定期試験、提出物、小テストによる総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科目	週時数
3L希望学/国際教養	3L希望学 1 国際教養 1 計 2 時間

目標	ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。	
	知識技能	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	思考判断表現	クラスやグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	主体性協働性多様性	誰も置き去りにしない社会を作るためには、何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	3L Basic 「防災、震災復興学習」 英会話 「国際教養」	6年間の学校生活の基盤となる、言葉遣いやマナー・情報モラルなど、良好な人間関係作りのための基礎を養成する。また、情報収集の技法や発表の仕方の基礎を身につける。 地域の自然環境や防災に対する取り組み、及びその課題について理解を深める。また、「SDGs」の内容について知り、ESDに取り組む意義について理解する。  国際社会と関わりながら発展してきた東北学院の歴史を学び、さらに、東北学院中高の国際交流の現状を理解する。
2 学期	岩手研修(環境学習, 世界文化遺産学習) 「防災、震災復興学習」 英会話 「国際教養」	『岩手研修』を通して東北の現状に触れ、この地域の課題について理解を深め、仲間と協力して活動を成功させようとする積極的な態度を養う。 よりよい地域づくりのため、SDGsの目標を踏まえ、自然環境保全・防災対策・地域産業振興について理解を深め、自分たちにできることについて考える。  知識として学んだ表現を、さまざまな場面で実践的に活用する力を養う。

授業の形態	一斉授業 講演 グループ学習 ワークショップ 個人の探究活動
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする